

# 「卒都婆小町」を歩く

世界三大美女は？といえ、小野小町、楊貴妃、クレオパトラが挙げられます。よく考えたとおかしなお話ですが、日本人にとつて小野小町は、美人の代名詞だった女性です。小町＝美人。観光PRでよく見る「○○小町」は、「○○美人」という意味。小町にあやかった呼び名です。小野小町は平安時代の歌人、能「草紙洗」にも登場する六歌仙としても有名ですが、百人一首の

「花の色は うつりにけりないたづらに

わが身世にふるながめせしまに」

の歌が馴染みがあるところです。小町の出自については歌人である小野篁の孫とも娘ともする説、生誕地も秋田県湯沢市小野、福島県小野町、京都市山科区小野、福井県越前市など諸説様々、墓所に至っては秋田県から山口県まで全国に点在して、各地の伝説とともにその生涯は謎につつまれた女性です。

まずは、小野小町邸跡と言われる随心院（京都市山科区）に行ってきました。JR「京都駅」からは琵琶湖線で一駅の「山科駅」で京都市営地下鉄・六地藏方面行に乗り換えて3駅目、駅名もまさに「小野」。「京都駅」からは十一分の近さです。周辺には小野御所ノ内町、小野荘司町、小野御霊町などの町名が見られます。「小野駅」から旧奈良街道を東に少し歩くと、真言宗大本山随心院が見えてきます。弘法大師の



↑小町「化粧の井」(随心院)  
けわい



↑京都市営地下鉄「小野」駅



↑99個のカヤの実(随心院)



↑随心院(京都市山科区)

廣田 幸稔

弟子・仁海上人を開祖に正暦二年（991年）建立された寺院です。梅林が広がる境内には小町が化粧をするのに使ったという化粧の井戸もあり、そのあたりが小野小町の邸宅跡だったといわれます。境内裏手には、小町が多くての貴公子からもらった恋文を納めたといわれる文塚があります。また、小町に好意を寄せて九十九夜通い詰めたという深草少将が、数を数えるために糸をつけたというカヤの実が残されていました。

さらに、京都市市原にある小町寺にも足を延ばしました。京都市内を流れる鴨川と高野川の合流点、能「班女」の舞台でもある糺の森の東側、叡山電車「出町柳駅」から乗車し、北に二十分ほどの「市原駅」で下車。鞍馬街道を十分ほど南下した切通しの崖の上、出羽守小野良貞の邸宅があったとされる場所に、天台宗如意山補陀落寺（通称・小町寺）があります。能「通小町」でも「市原野に住む姥」という詞章があり、小町終焉の地ともいわれ、境内には小町の姿見の井、小町の供養塔、深草少将の供養塔がありました。

隨心院には百歳の小町の姿を写したと言われる木像が安置され、拝見することはできませんでしたが小町寺には死後の小町が描かれた仏教絵画・小野小町九相図があります。両寺院とも、「花のいろは うつりにけりな」の歌碑とともに、老婆となった小町の姿も伝承されています。

貴公子たちを魅了した美しい小町、老衰して醜い姿となった小町を通して、仏語でいう無常を説いているように感じました。

平成二十八年 神無月吉日



↑多くの貴公子から小町に寄せられた恋文を納めた文塚（隨心院）



↑小町の歌碑「花のいろは うつりにけりな いたづらに」（隨心院）



↑深草少将の供養塔（小町寺）



↑小町寺（京都市左京区市原）



↑小町供養塔（小町寺）